

# 1. アジアの水に関する総合的研究

【研究代表者】後藤晃（経済学部教授）

【研究分担者】〔学内〕秋山憲治（経済学部教授）、川瀬博（法学部教授）、重村力（工学部教授）、高城玲（経営学部准教授）、田中則仁（経営学部教授）、内藤徹雄（経済学部非常勤講師）、廣田律子（経営学部教授）、馬興國（特別招聘教授）、松本安生（人間科学部教授）、山家京子（工学部教授）

〔学外〕佐藤寛（中央学院大学・社会システム研究所教授）、松本武祝（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

## 【研究の目的と概要】

### 目的

発展途上国の開発や気候変動による食糧生産の不安定化により水需給がひっ迫化する時代を迎え、世界的に水の問題が主要なテーマになっている。アジアでは水問題は複雑かつ多様な形をとっている。経済発展が進む中国では、経済の拡大で大量の水を飲み込むことで水不足と水質汚染が深刻化し、デルタに広がるバングラデシュでは、温暖化の影響で頻繁化する洪水と上水道のインフラ不足が問題になっている。また西アジアの乾燥・半乾燥地帯では地下水の枯渇や砂漠化など抱えている問題は多い。水問題は国際紛争の火種にもなっている。メコン川、プラマプトラ川、ユーフラテス川など多くの国際河川では、水の利用を巡り上流域と下流域の国家間の対立が深刻化している。これら多様な問題を抱えながら国際協力やビジネスの可能性も広がっている。水不足や水質汚染の現実には上下水道などの生活インフラ、環境技術に関する水ビジネスのチャンスを拡大している。

一方、水は我々の文化にも関わってきた。自然や都市の景観の豊かさに水は欠くことはできず、水と人間のかかわり方が地域の生活文化を特徴づけてきた。コップの水を飲み干さず道端の花に注ぐ乾燥地の人々の感覚は住宅のプランに影響している。タイ、韓国でも水と文化の形にそれぞれ特徴がみられる。21世紀は「水の世紀」ともいわれる。本共同研究は、アジアを対象に水をキーワードに学際的な問題意識から多角的に分析することを目的としている。

### 概要

- |               |   |
|---------------|---|
| 1. アジア社会と水    | ・ 水と生活文化（伝統社会における水）<br>・ アジアの国家と水（アジアとヨーロッパの比較） |
| 2. 人口増・経済発展と水 | ・ 人口・経済と水需要<br>・ 水と環境                           |
| 3. 水と産業       | ・ 食料生産と水<br>・ 水ビジネス                             |
| 4. 水の安全保障     | ・ 国の水政策と水利事業<br>・ 国際河川と水紛争                      |
| 5. 気候変動と水     |   |
| 6. 水と技術       | ・ 都市と上下水道<br>・ 水の浄化と淡水化事業                       |

